



Power Alliance Tax Accountants Office
 パワーアライアンス税理士事務所

News

編集 発行人

パワーアライアンス税理士事務所
 税理士 若杉 治
 〒151-0073
 東京都渋谷区笹塚3-37-1
 第1花井ビル2F
 TEL 03 (5365) 4744(代)
 FAX 03 (5365) 4745
 E-mail info@wakasugi.zei-mu.net

9月

(長月) SEPTEMBER

16日・敬老の日
 23日・秋分の日

日	1	15	29
月	2	16	30
火	3	17	・
水	4	18	・
木	5	19	・
金	6	20	・
土	7	21	・
日	8	22	・
月	9	23	・
火	10	24	・
水	11	25	・
木	12	26	・
金	13	27	・
土	14	28	・

9月の税務と労務

- | | |
|------------------------------------|--|
| 国 税／8月分源泉所得税の納付
9月10日 | 国 税／1月決算法人の中間申告
9月30日 |
| 国 税／7月決算法人の確定申告(法人税・消費税等)
9月30日 | 国 税／10月、1月、4月決算法人の消費税等の中間申告(年3回の場合)
9月30日 |



ワンポイント e-Tax による相続税の申告

今年10月から所得税・消費税・贈与税等に加えて相続税もe-Taxによる申告が可能となります。今年1月1日以降に相続等により財産を取得した場合の申告が対象で、作成・送信できる帳票は「相続税の総額の計算書」、「相続財産の種類別価額表」など。ただし、納税猶予等の特例関係は対象外とされています。



「道の駅」

その役割やモデルケース

「道の駅」。休憩や旅行・レジャー、長距離ドライブの際に気軽に立ち寄ることのできる休憩施設として親しまれており、その数も増えてドライブにとっては大変便利な施設です。

その土地ならではのグルメが味わえたり、地域の物産を購入できたり、温泉やオートキャンプ場が併設されていたり、またスタンプリリーの開催、道の駅弁当や切符なども販売されています。最近では車のドライバーのみならず、人気の自転車などのツーリングの休憩所としてもよく利用されます。

このように多様化する機能を反映し、「道の駅」そのものを目的地とした観光客も増加しています。

国土交通省のホームページ等を参考に、「道の駅」の役割や実際の事例についてみていきたいと思います。

1 概要

道の駅は、市町村又はそれに代わる公的団体が設置し、市町村長からの登録申請により、国土交通省（制度開始時は建設省）が登録する休憩施設と地域振興施設が一体となった道路施設です。

現在では、四七都道府県すべてに「道の駅」が設置されており、今年六月十九日の国土交通省の公表では、全国で一六〇駅あります。

また、平成二十六年四月一日に道路標識、区画線及び道路標示に関する命令が改正され、道の駅への案内標識が初めて正式に定められました。

道の駅は、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の人々のための「情報発信機能」

「道の駅を核としてその周辺地域のまちが連携する「地域の連携機能」という3つの機能を併せ持っています。

ドライバーは、旅の途中で、休憩の場、買い物場、道路交差情報、観光情報、食事などいろいろなことを求めます。このようなドライバーの要求を満たすことが、地域発展に大きく繋がることが、ドライバーと地元とのふれあいの場として、「道の駅」は個性を広げ、より魅力的な施設として変化してきました。

① 休憩機能

道の駅の利用目的で最も多いのが、休憩とトイレの利用です。また、ベビーコーナーなどの子育て施設も整備され、道の駅の利用者の多数が、道の駅を旅行の行程に組み込んでいます。

② 情報発信機能

利用者の大半に、地域の道路情報や歴史・文化・観光等の情報発信等の公的な施設としての役割が評価されています。

③ 地域の連携機能

利用者（消費者）の立場か

ら見ると、現在の道の駅は地元の水産物や農産物などの直売所のイメージが強いでしょう。

食への安全性への関心の高まりから、生産者の顔が見え、安心して新鮮な食材が買える直売所の存在が近年道の駅の人気を高めた原動力であり、道の駅の増加を支えてきたといってもよいのではないのでしょうか。また、わざわざお店に行かなくても、その地域ならではの特産品が売っているのも道の駅の魅力でしょう。

2 施設

道の駅は、二十四時間利用可能な一定数の駐車スペースやトイレ、情報提供施設、文化教養施設、観光レクリエーション施設などを備えています。登録要件となっています。そして多くの場合、道路や地域の情報を提供する「案内人」がいて、地域の自主的工夫のなされた施設が設置され、その地域の文化・名所・特産物などを活用したサービス（農産物直売所、売店、レストランなど）が提供されて

います。

また、平成十六年十月の新潟県中越地震の際には、道の駅が道路利用者や周辺住民の避難場所となり、炊き出しや仮設住宅が供給されるとともに、被害状況や周辺住民の安否確認といった、情報発信基地として利用されました。これを契機として道の駅には防災拠点機能が追加され、断水時でも使用可能なトイレ、非常食・飲料水の備蓄、停電時の非常用電源の確保等がなされた施設も増加してきています。

なお、施設に関しては、道路管理者の国や都道府県が基本的な施設である駐車場やトイレの整備を、市町村や第三セクターなどの公的な団体が地域側施設を設置する形が取られています。

3 ビジネスチャンス

地域の生産者や事業者からすると、一般的に、道の駅はスーパー等への出店よりも販売手数料の費用が安く抑えられ、負担金や協賛金といった名目の費用も求められないことから、取引条件が有利となることが多く、

口座の開設や品質の要求水準が低く、小規模の生産者や、新規参入の生産者でも取引をしても入るなど敷居が低いことが多いのが特徴です。集客力も高いため、実績を積んでいくことによりビジネスチャンスは広がります。

4 モデルケース

国土交通省は平成二十六年に、全国モデルとして六駅を選定しました。地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮している道の駅を認めたのです。模範としてその成果を広く周知するとともに、さらなる機能を発揮することを重点的に支援することとなりました。

モデルとなった六駅を順に見てみましょう。

(1) 「川湯田園プラザ」
(群馬県川場村)
「農業プラス観光」で人口約三、七〇〇人の村に年間約一二〇万人が来訪しており、リピート率は七割にも及ぶ。園内では朝採り野菜・ブルーベリーや乳製品などの地域資源を活かし、果物狩りや陶芸などの体験やイベント等により、村民と来訪者の交流の機会を提供している。

(2) 「もてぎ」
(栃木県茂木町)
真岡鉄道のSLやサーキットなど地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェイ機能を有する。「道の駅」が農家から柚子等を全量買取、手作業で加工、オリジナル商品(三三種類)を開発、販売している。

(3) 「とみうら」
(千葉県南房総市)
ビワ狩り体験企画など、地域の観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売している。また、地域の伝統・文化の継承、交流のための取り組みも行っており、富浦人形劇など、地域の伝統・文化の継承の場としても活用されている。

(4) 「萩しーまーと」
(山口県萩市)
地元業者と共に、魚の加工品の開発を行い、その商品は、「究極のおみやげ」等様々な賞を受賞している。萩漁港の水揚げ高の約一五%を販売し、地産地消に寄与し地元加工業者と連携して生み出したヒット商品は、地域全体の活性化に貢献している。

(5) 「内子フレッツシュパークからり」
(愛媛県内子町)
地元農家を中心となった商品開発を行い、町内の農産品販売額の一五%を占めている。ITを導入して鮮度を追求することで、安全安心な農産物提供システムを構築し、出荷する地場農産物にトレーサビリティやPOSシステムを導入。販売情報が連絡され、在庫に合わせて出荷者が直接納品することで鮮度向上を追求している。

(6) 「遠野風の丘」
(岩手県遠野市)
広域防災拠点として高度な防災機能を分担している。東日本大震災では、復旧、救援に向かう自衛隊・消防隊やボランティアの方々の後方支援拠点として機能した。また、産業振興の拠点、観光や地方移住等の総合案内拠点となっている。

防災の日

9月1日は防災の日です。

大正12年9月1日に発生した関東大震災にちなんだものであり、また、この時期に多い台風への心構えという意味も込めて制定されたものです。

近年日本では台風や豪雨による大きな被害が相次ぎ、毎年のように「数十年に一度」、あるいは「経験したことのない」といった文言が聞かれます。

また、避難勧告や避難指示が出ているにも関わらず避難しない人が多かったことも問題となっており、今年の3月には「避難勧告等に関するガイドライン」(内閣府(防災担当))が改定され、「大雨警報」などの気象情報と、その際私たちが取るべき行動、5段階の警戒レベルがひも付けられ、テレビなどで氾濫する情報が分かりやすく整理されました。

国土交通省及び各自治体では災害時のハ

ザードマップ、つまり被害予測地図が作成され、地震・水害・土砂災害などが起こった場合の予想される被害地域、及び緊急避難場所など、災害時の行動の指標となる情報を得ることができます。

ハザードマップはスマホやパソコンで閲覧でき、市役所などでも配布されています。ハザードマップを基に家庭や職場で緊急時の取り決めをしっかりと話し合い、もしもの時にどう行動するかを普段から訓練することも大切です。

前述の避難の問題では、「正常性バイアス」という心の働きについても触れられていました。何らかの異常事態が起きた時に「これは正常の範囲内だ」と思い込んで、心を平静に保とうとする働きのことです。とっさの時に迅速に避難に踏み切るには、やはり普段からの準備、話し合い、繰り返しの訓練を行うことが大切です。防災の日を機会に取り組みを始めましょう。

ハンドケア

私たちの体のパーツの中で一番自分の目に入るところ、それは「手」です。特にデスクワークでパソコン作業の多い方は、一日中目に入っているととっても過言ではありません。

シユできます。男性はあまりハンドケアの習慣がないかもしれませんが、名刺交換の時など、手は意外と人の目につくパーツです。きれいにケアされた手は、それだけで相手に与える印象が良くなります。

仕事中心イライラしてしまったり、少し気分転換をしたい時、席を立って手を洗い、ハンドクリームを丁寧に塗ると、不思議に気持ち落ち着き、リフレッシュ

クリュームがべたつかず、仕事中でも使いやすいものがたくさん出ています。ぜひお気に入りのお探しになって下さい。

フルーツティー

秋の夜長のお供に、おいしいフルーツティーはいかがでしょう。

好きな果物をカットし、お好みで砂糖と混ぜ合わせ、そこに熱い紅茶を注いでしばらく待てばでき上がりです。熱いままでももちろん、まだまだ暑い夜には氷を入れて冷たくしてもおいしく頂けます。

この時期は夏の暑さで体が疲れている方も多いと思います。ビタミン・ミネラル豊富で疲労回復が望める果物や、冷房で冷えた体を中から温めてくれる紅茶を使ったフルーツティーは、これから迎える秋にもぴったりの飲み物ですね。

カフェインを気にされる方は、紅茶の代わりにルイボスティーやハーブティーを使われるのはいかがでしょうか。

色々な種類の果物が店頭にも並ぶ季節です。ぜひ好きな果物を使って作ってみて下さい。